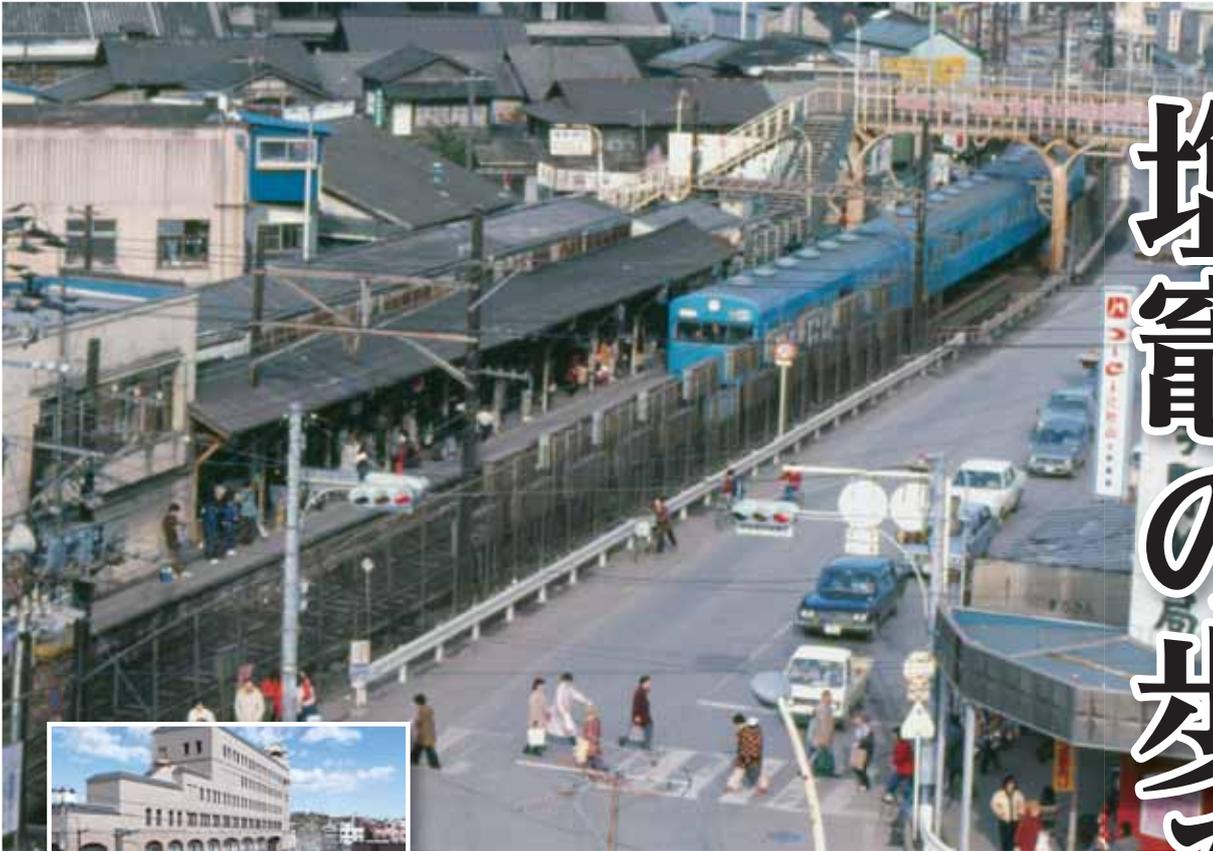


塩竈の歩み



▲昭和56年の本塩釜駅(市民提供)
◀駅があった場所の現在の様子

港湾都市への成長を支えた

鉄道の歴史

明治20年、「開港場」と呼ばれ港の整備が進められていた海岸通に、東京上野に通じる鉄道の塩竈駅(後の塩釜港駅)が開業。岩切駅とこの塩竈駅を結ぶ路線は塩竈線と呼ばれ、近代的な港湾都市へ発展する塩竈にとって重要な役割を果たしました。

昭和31年に東北本線の塩釜駅が開業してから塩竈線は貨物専用路線となり、昭和54年に駅舎は解体されました。現在は、当時の駅舎の模型が壱番館4階の「タイムシツプ塩竈」に、一帯のジオラマ模型が「旧亀井邸」に展示されています。

また、現在の仙石線は、宮城電気鉄道株式会社により仙台駅と西塩釜駅間が大正14年に開業し、翌年には本塩釜駅(現在の壱番館の位置)まで延伸しました。駅の東側、国道を挟んで観光棧橋があり、浦戸諸島や松島、金華山まで航路が結ばれていました。船の汽笛が聞こえ、潮風を感じる情緒のある駅でした。

昭和56年、市街の踏切による交通渋滞が激しくなったことから、仙石線の高架複線化工事が行われ、線路と本塩釜駅が現在の位置(旧塩釜港跡地)に移転し、宮造り風のひさしを配した近代的な駅舎に生まれ変わりました。

しおがまの昔・懐かし

思い出写真館 ②⑤

塩竈市80年の歴史を振り返る

写真は昭和50年代の本塩釜駅前の様子です。複線化により移転する前は、現在の壱番館の位置にありました。駅前の周辺には、洋品店、書店、立ち食いそば屋、靴店、精肉店、洋菓子店、金物店など、さまざまなお店がありました。小さな駅舎でしたが、地元の買い物客や通勤者、高校生、神社参拝者などで大変混み合っていました。



現在の壱番館の場所にあった本塩釜駅(市民提供)